

令和4年度 目黒日本大学幼稚園 自己評価票

〔本園の目指す幼稚園像〕

本園は児童樂園として開園以来、子どもたちの自発的活動に重きをおく自発主義を理想としてきた。本園の第一義的役割は、子どもたちが人格形成の基盤となる幼児期に、一人ひとりの持つ個性を伸ばしながら、心豊かにバランスの取れた育ちへと導くことである。

〔本園の特長〕

- ・ 様々な体験活動を通して豊かな感性を育む。
- ・ 人や物、環境に関わりながら好きな遊びに取り組み、質の高い幼児教育を心掛ける。

〔本園の課題〕

- ・ 一人ひとりの発達と育ちの現状を捉えた上で、その学年だけでなく、今後の成長を考えたカリキュラムや保育の環境を整える。また、それに対応できる保育力を高めていくことに努める。
- ・ 感染症対策を引き続き行いながらも、従来行ってきた活動を大切に、実施できる方法をその都度検討し直し、子どもたちにとっての経験の機会を維持できるようにする。
- ・ 少子化に伴い地域の未就園児数が減少する中、本園では教育方針や、預かり保育や課外教室などの改革を進め新入園児の減少を抑えるようにする。

令和4年度の取組結果

〔概況〕

新型コロナウイルス感染症対策を実施しながらの保育が3年目に入り、保育者も流れを掴みやすくなったことや、情勢が安定してきたこともあり、先々を予測した計画を立てやすくなった。全園児で行う活動や、行事での人数制限緩和、マスクの着脱など考慮し従来の形で行えるものも増やし、また実際の状況によって柔軟に保育の実施方法を変更することができた。

子どもたちの興味関心があることに対し、環境を整えたり、保育者が知識を増やしたりし、より深い遊びや学びができるようにした。また、目黒区の研修会のテーマとして、「保育におけるSDGsについて」を掲げ、本園では、日常的に使っている折り紙や画用紙の無駄遣いをしないことから、身近な環境問題を理解しやすいように絵本などで紹介し、クラスでの話し合いを行った。

評価項目	取組結果・進捗状況	達成状況
保育の計画性	子どもが興味関心をもっていることや成長の姿を把握し、今後の成長に必要な指導を考え、月案、週案等の指導計画を立てていった。また、必要に応じて興味関心の高い内容や、伸ばしていきたい部分に対応した内容については、保育者自身が研究をしたり、準備を行ったりして取り組んできた。	A
保育の在り方 幼児への対応	平均的なその時期の発達段階だけではなく、実際の子どもの状況に応じた環境設定や保育内容、言葉掛け等を考え、心身ともに健康的に育てるように保育に臨んだ。またクラスを越えた保育者間での協力体制を取ったことで、他クラスの園児との関わりが増え、学年全体の先生が子どもたちの姿を把握することができた。 しかし、時に活動の内容ばかりに目がいきつてしまい、子どもの姿に寄り添った声掛けができていない場面もあったため、柔軟に対応できるような計画にして	B

	おく必要がある。	
保育者としての資質 や能力・良識・適正	毎週の学年毎の反省会で、各クラスの活動報告と改善点について様々な意見を出し合った。目黒区の研修会を通して保育者がSDGsについて学び、子どもたちにわかりやすく伝えるための方法を検討した。今年度は園内研修を昨年度ほど行うことができなかつたため、今後は保育者同士、様々な立場の視点から意見を出し合える時間を設けていきたい。	B
保護者への対応	バス通園で顔を合わせる機会が少ない保護者へは、電話連絡や課外の送り迎えの際、意識的に時間を見つけ園児の様子を伝えるように努めた。 その際挨拶や言葉遣い、立ち振る舞いなど基本的な部分を丁寧に行うように気を付けた。 保護者が心配している内容や気にかかっている部分について汲み取り、安心できるようなコミュニケーションを取れるように気を付けていたが、保護者の求める対応に届かない場面もあった。引き続き、多様な価値観に寄り添った対応を意識していきたい。	B
家庭支援	長期休暇中の預かり保育の実施を開始し、保護者の支援に努めるだけでなく、園生活のリズムを崩さないような活動を取り入れるようにした。 長時間参加する子どももいるため、新鮮な気持ちで過ごせるような活動内容を随時保育者同士で検討し、取り入れるようにしていきたい。	A
地域の自然や社会と のかかわり	年中組・年長組の芋ほりや、年少の散歩で狛江園芸の方や目黒不動尊のご住職と交流をさせていただいた。また下目黒小学校の校庭にて運動会を実施させていただいたり、学年毎に遠足で動物園や水族館、科学館へ行ったりと、外部の方と関わる機会が持てた。しかし、園外へ出る機会が少ないため、マナーなど理解をしても実践することが難しい場面も見られた。	B
保健衛生	養護教諭による手洗い指導で、手洗いの必要性を子どもたちに伝えた。また登園時や食事前の手指消毒など習慣化することができた。マスクの使い方や食事中など約束やマナーについて子どもへ指導を行った。また毎日保育終了後に玩具や机、椅子などの消毒を行ったことで、感染症の流行は見られなかった。	A
広報	各行事に加え、クラス活動をほぼ毎週ブログに掲載したことで、保護者にとっては保育の様子を知る機会となり、本園に興味を持ってホームページを見てくださる方にとっては幼稚園のPRを兼ねることができた。 次年度の入園希望者に対して見学会を多く行い、保育内容や園児の過ごし方を実際に見ていただくことができた。また説明会の回数を当初より増やしたことで、都合がつかない方も参加することができた。	A
管理運営	行事毎に係を分担し、内容の検討や準備物の手配、必要に応じて発注など行い、職員全体への打合せを通して情報共有・運営を行った。 防災訓練について定期的に係が会議を行い実施方法の検討、職員全体への情報共有を行い月一回実施した。その都度反省点を挙げ、災害時の円滑な避難マニュアルの策定、改善を行った。	A
教育活動 体操教室	運動機能向上や、集中力を養うため課内で体操の時間を設けているが、今年度よりカワイ体操教室へ委託した。講師の指導の下、5歳児クラスは年間21回、4歳児クラスは年間10回、園庭または遊戯室にて、かけっこを始め、器械体操運動（マット、鉄棒、とび箱）や道具を使った運動（ボール、縄跳び）を行った。 挨拶の指導や運動遊びを通じて、身体を動かす楽しさを知ることや、相手のことを考えながら動くことを学べ、体操教室の取り組みが、普段の保育活動にも良い影響を与えた。また、最初は運動に苦手意識があった子も、徐々に自信を高めることができた。	A
教育活動 野菜の苗植え	野菜の育ちを知り、食べ物を大切にすることを育てるため、園舎2階のテラスにプランターを置き、オクラ、ピーマン、トマト、きゅうりを栽培した。園児一人ひとりが苗を植え、毎朝欠かさずに水やりをし、小さな実が付いていることを発見すると保育者や友だちに教え、喜ぶ様子があった。クラスのみならず育てる野菜だ	A

	からと、苦手な野菜であっても献身的に育て、家に持ち帰った際には食べることに挑戦していた。	
--	--	--

※【A達成できた, B大体達成できた, Cあまり達成できなかった, D達成できなかった】

令和4年度 学校関係者評価結果

評価項目	評 価
保育の計画性	子どもの成長と共に季節や行事に合わせた指導が適切に行われている。その年代の子どもの成長を理解するために、保育計画や学年別の様子を発信してもらいたい。
保育の在り方 幼児への対応	クラスや学年を超えて子どもたちや保護者を理解しサポートしてくれている。個々の自主性を尊重した保育が行われていると感じるので、個性が発揮できる場をさらに提供してほしい。
保育者としての資質 や能力・良識・適正	子どもが SDGs に関心を示し、幼稚園で指導を受けられることに喜びを感じる。幼稚園内の研修の実施内容についての情報が不足しているため、保護者に向けて情報共有をしてほしい。
保護者への対応	担任以外の教職員も保護者との対応に意欲的であり、コミュニケーションを大切にしていると感じる。
地域の自然や社会と のかかわり	地域において本園が一定の役割を担っていることを理解した。コロナ禍における関わりの制約もあるものの、子どもたちが楽しみながら自然や社会との関わりを学んでいると思う。今後も付近の施設と連携を取って、見学などする機会を設けてほしい。
保健衛生	指導や取り組みが効果的である。幼稚園での衛生意識の高さが子どもたちにも浸透しており、安心して幼稚園生活を送ることができている。
教育活動 体操教室	体操教室は子どもたちの興味関心を引き、スポーツを通じた成長につながる貴重な活動だと感じられた。運動が得意な子どもも苦手な子どもも、専門の先生に教わることにより楽しみながら体を動かすことができたと思う。
教育活動 野菜の苗植え	野菜の苗植えは子どもたちにとって貴重な経験であり、楽しみながら食物の成長や食べ物づくり方、食べ物大切さを学ぶ機会となっていると思う。子どもたちも責任感を持って取り組んでいると感じた。

令和5年度の改善取組項目及び方策

改善取組項目	取組方策	取組スケジュール
保育の計画性	定期的な会議を行い、学年毎に実際の子どもの状況を把握する。その上で、保育者の今までの経験を活かし、必要に応じて学びを深めながら指導計画を立て、他学年にも共有する。また、保護者への発信の仕方も検討する。	月案・週案 職員会議
保育の在り方 幼児への対応	園児の成長を考え、安全安心に過ごせる関わり方を常に意識して関わる。クラス毎の園児の様子を共有し合い、どの保育者でも対応ができるようにする。	学年会議 職員会議 主任会議
保育者としての資質 や能力・良識・適正	保育者として悩む内容を議題として園内で話し合い、様々な意見から対応方法を見出す。 外部研修を通して、他園での取り組み方法を知ったり、専門家の話を聞いたりしながら、向上心を持ち、子どもたちの最善な利益を考えた保育を心掛ける。	園内研修 目黒区の研修会 外部の研修
保護者への対応	情報統一や情報共有を徹底する。 保護者の言動について、きちんとした読み取りが出来るようにし、誤解が生じないよう丁寧に伝える。	朝会 報告
家庭支援	引き続き長期休暇中の預かり保育を実施し、保護者のニーズに応えるよう努める。またその時間の内容についても随時見直し改善を図る。	主任会議

地域の自然や社会とのかかわり	外部の方との交流を経験することで、子どもたちが心豊かに過ごせるよう、地域との連携をはかる。	年間行事に準ずる
保健衛生	養護教諭からの指導やアドバイスを聞き、子どもの健康面や感染対策について改善する。	保健計画予定に準ずる
広報	ホームページやブログなどの発信力の強化や見やすさなどの改善を行う。 新教育方針を分かりやすくホームページや説明会等で伝え、本園に興味を持っていただく。 通園バスコースの見直しを行い、今まで通っていなかった地域へ広げる。	配信時の確認 主任会議
管理運営	委員会や係など役割を決め、定期的な会議や記録会、情報共有を含め話し合いを行う。	委員会・係等会議
新規取り組み	小学校への導入を考え、デジタル教育の取り入れを行うため、AIロボットを使用した活動を開始。また、今後のカリキュラムの策定を行う。 課外教室にECCによる「英語」のレッスンを導入、またアトリエ教室の特別プログラムの実施を行い、様々な習い事を行い、たい家庭の要望に応えられるように努める。	学年会議 職員会議 主任会議

以上